

令和4年度 大田区立矢口小学校 学校経営デザイン

校長 井上光広

おおた教育ビジョン

- ビジョンⅠ 社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力
- ビジョンⅡ 「知・徳・体」の調和のとれた成長、豊かな人間性の涵養
- ビジョンⅢ 意欲にあふれ、個性と可能性を最大限に伸ばす学びの場の創出
- ビジョンⅣ 地域の特色を生かし、家庭・地域が連携・協働して子どもを育てる

本校の学校教育目標

- 「よ・い・こ」の目標の徹底**
- ◎ よく考え、すすんで学習する子ども
 - ◎ いつも元気で、じょうぶな子ども
 - ◎ こころ豊かで、やさしい子ども

目指す学校像

- ①未来の社会に貢献できる児童を育成する学校
- ②児童の意欲を引き出す学校
- ③安全で安心できる学校
- ④保護者や地域に信頼される学校

令和4年度の重点目標

◎大田区「未来ものづくり科」新設に向けての研究活動

- ◎体力の向上と健康の増進
- ◎人権意識やコミュニケーション能力の向上
- ◎未来型授業(GIGAスクール構想)の開拓
- ◎ESD(SDGs)を軸としたカリキュラムマネジメント
- ◎伝統文化芸術教育としての「俳句」指導

目指す児童像

- ◎学校精神「矢口魂」の意味を深め、日常的に実践する子ども
- ◎「何のため」を常に自分に投げ掛け、自問自答し、向上心に満ちた子ども
- ◎学校教育目標を意識し、ともに高め合う子ども

目指す教師像

☆教師は最高の教育環境、太陽のような存在

- ①サービスの厳正
- ②人権尊重意識の高い教師
- ③プロ教師の自覚と児童の意欲を引き出す力
- ④子どもへの愛情、子どもの成長を喜ぶ心
- ⑤社会人としての常識ある人
- ⑥チーム矢口の意識
- ⑦地域や保護者と連携、信頼される教師

目標実現のための具体的方策 ◎の項目は特に重視

学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ◎確かな学力、基礎基本の定着 ◎未来ものづくり科による探究学習と地域愛の育成 ◎企業連携、大学等との連携、外部協力者との連携 ○Society5.0時代に対応できる主体的・対話的で深い学びの実現 ○大田区ステップ学習、東京ペイシックドリル、 ○デジタル教材の活用 ○読み聞かせや読書指導の充実 ◎俳句、川柳、短歌、百人一首などの伝統的言語文化指導 ○各種コンクールへの応募 	<ul style="list-style-type: none"> ◎総合的な表現の場としての矢口文化芸術展 ○少人数算数の推進 ○教科担任制 ◎矢口農園をはじめとする学校環境の活用 ◎ICT活用(タブレットPC、プログラミング) ○外国語教育や国際理解教育の推進 ○理科教育の推進、専門指導員との連携 ○家庭学習の定着 ○学習カルテ⇒カウンセリングの充実 	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ◎運動の日常化、習慣化による体力向上 ◎縄跳び、コーディネーショントレーニング ○エンジェイタイムの充実 ◎自己健康衛生管理能力の育成 ○大田区小学校駅伝大会 ○学校医との連携による健康教育 ◎NPO法人との連携による「魚」の食育 	
	生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○相手を思いやる行動、人間性の育成 ○道徳教育の充実 ◎「あいさつ、返事、けじめ」の指導 ○思いやりの心情を育むコミュニケーション指導 ◎「人権の花運動・人権標語・ポスター・習字・川柳」を通した人権尊重教育 ○矢口スタンダードを基にした規範意識 ○ノーチャイムによる時間厳守意識 ○「子どもの心サポート月間(6, 11月)」 ◎大田区いじめ対策条例に基づく組織的対応、不登校防止対応 ○「早寝・早起き・朝ご飯」運動 		特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年交流(なかよし班・委員会活動・クラブ活動) ◎全校的意識を高める指導(朝会あいさつ・委員会活動など) ○勤労奉仕的活動(地域清掃など) ○学習内容とリンクした校外学習 ○長期的育成計画に則った学校行事指導 ○児童相互に学び合える学級経営 ○キャリアパスポートの活用
地域・外部機関連携	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校広報(便り・サイトなど)による理解者・支援者拡大 ◎保護者との密接な連絡・相談 ◎PTAとの連携・協働 ○地域行事への参加 ○非常時の敏速な対応 ○避難所機能の向上 ○学校評価の効果的な活用 ◎やぐち応援隊(学校支援地域本部)との協働、サマーワークの充実 ○副籍交流や幼保連携 ○外部関係機関との総合連携強化 	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ◎すべての児童は個性に応じて支援が必要であるという指導観 ○個の実態に応じた指導 ○合理的配慮と関係機関連携強化 ◎在籍学級とサポートルームの連携強化 ○人的・物的支援体制の強化 ○特別支援教育に関する教員の指導力向上 ○支援の必要な児童への居場所作り 	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ◎職員の能力向上を目指した働き方改革 ○校内研究、校内研修、OJTの推進 ○学年、学級、専科経営の充実 ○危機管理の徹底 ○服務事故「0」を順守

